

大豆同名品種の特性調査について

工藤*・丸山*・池田*・柏原*・下津*

KUDO, N., MARUYAMA, K., IKEDA, M., KASHIWABARA, M. and SHIMOTSU, M.
Investigations on the Agronomic characteristics on the
Subspecies of Soybean Plant.

1952年より55年に亘り全国的に行われた大豆品種の分布調査によつて、我国の大豆品種の概要を知ることができるが、その調査においては同一名称の品種が同種であるか、同名異種であるか判然としない。

従つて、筆者等が育種対照地域としている中部及び西日本の数県にまたがり栽培されている主要大豆品種(III_c~IV_c型)について育種及び栽培上の資料とするため1956年より形態的特性調査を行つてきた。ここにその概要を報告する。

供試材料

主として1956年に各県より送付をうけた品種について調査を行つたが入手できなかった県の品種については當場品種保存を供用し、下記の品種を供試した。

調査結果並びに考察

1956年に各県より送付をうけた同名品種間には第2表の如く粒大において顕著な相違がみられ、粒形、粒

*熊本県農業試験場

第1表 供試品種数

品 種 名	品 種 数	品 種 名	品 種 数
赤 玉	21	八 月	7
大 豆	17	銀 大	7
白 豆	10	銀 白	6
矢 作	14	銀 白	5
計			87

第2表 取寄種子の粒大の変異

品 種 名	100 粒 重 gm	
	max.	min.
赤 玉	29.4	17.5
大 豆	27.4	15.4
白 豆	25.3	20.2
矢 作	27.3	10.5
八 月	23.2	14.2
大 豆	21.2	18.3
銀 白	22.9	19.5
銀 白	23.8	16.8

第3表 同名品種の類別と特性

品種名	類型	花色	莢色	毛茸色	粒形	粒色	臍色	光沢	開花迄日数	結日実数	取寄県名
赤 莢	I	白	褐	褐	球	黄白	暗 褐	無	38~42	59~63	{新潟, 富山, 石川, 長野, 山梨, 三重, 静岡, 大阪, 岡山, 鳥取, 島根, 大分, 滋賀, 兵庫, 京都, 香川, 愛知, 京都}
	II	白	淡褐	褐	扁球	黄白	暗 褐	無	40	60	
	III	白	淡褐	褐	球	黄白	暗 褐	無	47	67~68	
	IV	紫	褐	褐	球	黄白	暗 褐	無	40	63	
	V	紫	褐	褐	球	黄白	暗 褐	無	45	72	
玉 錦	I	白	淡褐	白	楕円	黄白	褐	無	46~47	66~67	{福島, 静岡, 愛知, 岐阜, 滋賀, 京都, 三重, 大阪, 兵庫, 岡山, 香川, 徳島, 山梨}
	II	紫	褐	褐	扁楕円	黄	褐	無	47	69	
白大豆	I	白紫	淡褐	白	球	黄白	褐	無	46	65~66	三重, 奈良, 山梨, 鳥取, 島根, 香川, 高知, 愛知, 福岡
	II	紫	淡褐	白	扁球	黄白	暗 褐	無	45~47	64~66	
	III	紫	淡褐	白	楕円	黄	暗 褐	無	48~51	68~70	
矢 作	I	紫	褐	褐	楕円	黄	暗 褐	無	45~47	65~66	{福島, 長野, 静岡, 愛知, 岐阜, 三重, 京都, 香川, 徳島, 愛媛, 高知, 岡山, 山梨, 京都}
	II	紫	灰褐	白	球	黄	暗 褐	無	44	63	
	III	紫	褐	褐	扁楕円	黄白	暗 褐	無	50	69	
	IV	紫	褐	褐	球	黄白	暗 褐	無	37	58	
八 月	I	白紫	灰褐	白	球	黄白	褐	無	45~46	60~61	福島, 長野, 岡山, 徳島, 高知, 香川, 山口
	II	紫	灰褐	白	扁球	黄白	暗 褐	無	46	62	
	III	紫	褐	褐	楕円	黄	暗 褐	無	49	62	
	IV	紫	褐	褐	楕円	黄白	暗 褐	無	38	60	
銀大豆	I	紫	暗褐	白	球	黄	褐	無	45~49	63~67	静岡, 岡山, 香川, 徳島, 福島, 高知
	II	紫	暗褐	白	楕円	黄白	暗 褐	無	50	67	
	III	紫	暗褐	白	楕円	黄	暗 褐	無	48	63	
銀 白	I	白紫	暗褐	白	楕円	黄	暗 褐	無	42	67~68	山梨, 滋賀, 三重, 長野, 岐阜, 大分
	II	紫	暗褐	白	球	黄	暗 褐	無	46	63	
III	紫	暗褐	白	球	黄	暗 褐	無	42~43	64		
日 白	I	紫	淡褐	白	扁球	黄白	白~暗褐	無	48~50	71~73	福島, 徳島, 愛媛, 高知, 福島
	II	紫	淡褐	白	球	黄	白~暗褐	無	39	67	

色, 臍色, 品質等においても幾分の相違があり, 同種なるか, 同名異種なるか類別することは困難であつた。

これらの品種を1956, 57年の両年にわたり胚軸色, 花色, 葉褥色, 葉枕色, 葉葉の毛茸の有無多少, 葉面の凹凸度, 莢色, 莢の毛茸の多少, 粒色, 粒の光沢, 粒形, 粒大, 草型, 開花迄日数等の主要形質について調査した結果第3表のような類型群に類別された。

赤莢については山木の調査と同様に富山, 新潟, 長野の品種は夫夫在来種の淘汰品種であるが特性の相違は認められず, これらの各県, 特に長野の赤莢が各県に導入されて所謂赤莢として広く栽培されているようである。滋賀, 兵庫の品種は来歴では長野—滋賀—兵庫と移動しているが粒形, 草状において二者は全く異なるものとなつている。京都の品種には紫花と白花の2種があり, 何れも前記の赤莢と異り, 白花品種は香川

の品種と類似する。愛知の赤莢は長野に由来し, 各種形質はよく類似するが花色が紫で別個の品種と考えられる。

玉錦は兵庫において淘汰され, 移動したもので山梨の玉錦のみが花色, 莢色及び粒の諸特性において相違し, 他の府県品種間には相違が認められない。

白大豆は三重及び鳥取の在来種が夫夫淘汰され, 移動したもので両者は類型を異にし, 又愛知, 福岡の白大豆は前者とは甚しく形質が相違する。

矢作は愛知より各県に分散しているようで大部分は同種と考えられるが, 岡山, 山梨の品種は共に熟期, 莢色, 粒の特性が相違し, 夫夫別個の類型で, 又京都の品種は花色, 熟期及び粒の諸特性が異なる。

八月は徳島を移動源として数県に拡がり, 一方福島においても在来種が淘汰されているが両者は類似し

た特性をもつ。香川の品種は徳島より導入されているが花色、粒形が全く異つている。高知の品種は岡山より移動しているが前2者と異り、又山口の早生八月も異品種である。

銀大豆は岡山より各地に移動しているが、福島、高知の2品種は夫々現在においては異品種と推定される。

銀白は山梨、長野を移動源とする2型があり、三重の銀白は山梨より導入されながら長野群に近い異品種である。

目白は地理的に遠く距つた四国、福島の品種間に諸

特性の相違は認められないが来歴の関連は判然としない。なお福島の目白には異品種と思われる2種類がある。

結 び

以上の如く中部及び西日本の数県にまたがり栽培されている大豆の同名品種は育種及び栽培上の実用的な外部形態においても異品種であると認められるものが相当多く、さらに生態的特性も併せ考えれば加藤の赤莢における調査の如く前述の類型群はさらに細分されるだろう。